

# 平成30年度松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

## 第1回会議議事録

会議名称	平成30年度松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第1回会議
開催日時	平成30年7月6日(金) 午後 4時00分から5時20分まで
出席者	<b>【審議会委員】</b> 松伏町商工会会長：小島 朗 埼玉県東部地域振興センター所長：酒井 英治 大正大学埼玉校舎再開発調査担当部長：上田 忠憲 埼玉りそな銀行越谷支店支店長：島田 秀一 越谷公共職業安定所所長：佐藤 浩二 埼玉新聞社参与：宮下 達也 公募委員：大宮 晴海 公募委員：徳沢 夏海 特定非営利活動法人親子サポートぼっぼ代表理事：大塚 節子  <b>【松伏町】</b> 町長：鈴木 勝 地方創生等庁内推進本部会議委員長(副町長)：鈴木 寛 地方創生等庁内推進本部会議副委員長(企画財政課長)：石川 敏 新市街地整備課長：城後 将希 企画財政課主幹：目黒 健二 企画財政課主査：末次 雄一郎 企画財政課主任主事：鈴木 陵平 企画財政課主事：高見 恭兵
欠席者	吉川青年会議所顧問：程田 幸秀
議事録作成者	企画財政課総合政策担当 主任主事 鈴木 陵平
議題	1. 会長・副会長の選出 2. 町長からの諮問 3. 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と取組み 4. 今後のスケジュールについて 5. その他

配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員名簿</li> <li>・ 資料 1 諮問書</li> <li>・ 資料 2-1 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要</li> <li>・ 資料 2-2 主な地方創生関連事業</li> <li>・ 資料 2-3 平成 30 年度の取組む主な地方創生関連事業</li> <li>・ 資料 3 今後のスケジュール</li> <li>・ 資料 4 松伏町 主なまちづくり事業</li> <li>・ 参考資料 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂版）</li> <li>・ 参考資料 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会条例</li> <li>・ 参考資料 松伏町人口ビジョン</li> </ul>
---------	---

## 議 事

発言者	発言内容・決定事項等
<b>議題 1 会長・副会長の選出</b>	
町長	審議会長に松伏町商工会長の小島朗委員が、審議会副会長に吉川青年会議所顧問の程田幸秀委員が選出された。
<b>議題 2 町長からの諮問</b>	
町長	松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会条例の規定に基づいて、町長から諮問を行った※。 ※別添「資料 1」参照
<b>議題 3 松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と取組み</b>	
事務局	<p>（資料 2-1～資料 2-3 に基づいて事務局から説明。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2014 年 5 月民間の機関から地方からの大都市への人口流出が止まらず、2014 年度の出生率がそのまま続いた場合、2040 年には市町村の約 50%（896 団体）が消滅する可能性がある」と発表があった。</li> <li>・ 国立社会保障・人口問題研究所が 2014 年に発表した、日本の将来推計人口は 2060 年には 8,700 万人まで減少するとされている。</li> <li>・ こうした危機的状況に対して、国は平成 26 年度にまち・ひと・しごと創生法を定め、国をあげて人口減少に対応し、5 か年ごとの目標や政策の方向性を定めた、まち・ひと・しごと創生総合戦略を国が定め、全国的に人口減少に対応することとなった。</li> </ul>

- ・国の流れを受けて、町の実情を踏まえた人口減少対策として、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたり、本審議会を立ち上げ、本総合戦略を平成27年度に策定した。
- ・計画期間は27～31年度で、来年度は改訂を審議いただく。
- ・総合戦略の基本理念として、「交流人口を増やす魅力づくりと町民満足度の向上」を掲げ、町の知名度を上げ、多くの方に知ってもらい、転入候補地として松伏町を机上にあげていただくことを念頭に4つの基本目標と2つの土地利用構想に関する重点施策を展開している。
- ・北部拠点活性化事業については、「地方創生先行型交付金」を活用し、実施したものである。
- ・本事業は北部地域にある旧老人福祉センターと旧農村トレーニングセンターを北部地区の拠点とするもので、老人福祉センターについては、各種証明書の発行等ができる窓口を新たに設置し、平成28年度より北部サービスセンターとして生まれ変わった。今後はソフト面の充実を図っていく。
- ・シティプロモーションについては当町の総合戦略において、戦略的なシティプロモーションを行い、町の認知度アップを目指し実施している。  
昨年度、松伏町シティプロモーション戦略策定委員会を立ち上げ、既存の情報発信ツールの見直しや、新たな広報媒体の導入の検討などを行い、シティプロモーション戦略を策定した。
- ・まつぶし逸品については、総合戦略上に示されている、「地域資源を活用した特産品開発事業」を実施したもので、埼玉県ふるさと創造資金を活用し、特産品の開発事業を実施した。
- ・開発は、まつぶし逸品開発委員会を立ち上げ、最終的に松伏産の米粉を使用した、米粉マカロンと糰ジャムとすることとなった。
- ・現在、町内5か所と町外1か所にて販売をしており徐々に販売店を拡大している。今後も販売店を拡大し、まつぶし逸品を通した町のPRを図っていく。
- ・松伏町多世代交流学習館については国の地方創生拠点整備交付金を活用し、旧赤岩地区公民館を改修した。
- ・本交付金の支援を受けるためには、交付申請に加え、地域再生計画を国に申請し認定される必要があることから、申請を行い、昨年4月に交付決定及び認定をいただいた。
- ・本交付金や地域再生計画の効果の検証を今後行っていただくこととなる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業のソフト事業では、カフェを設置しており、今年5月より本格的に開始し、利用者は大幅に増加している状況で、効果は表れているものと認識している。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレミアム商品券についても説明を求める。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度に国がまち・ひと・しごと創生法を施行した動きに合わせて、国が地方への景気好循環の拡大に向けた緊急経済対策として、自治体を実施する消費喚起・生活支援に対して助成を行うこととなった。</li> <li>・当町では松伏町プレミアム付き商品券事業として平成27年度に2期に分けて商工会の協力を仰ぎながら販売を実施した。</li> <li>・10,000円購入で13,000円の30%のプレミアが付加された商品券を国の交付金を活用して実施した。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明のあった事業について今後委員の皆様には効果検証をしていただくこととなる。</li> </ul>
議題4 今後のスケジュールについて	
事務局	<p>(資料3に基づいて事務局から説明。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は本会議を含めて計2回の開催を予定しており、次回は9月下旬を予定している。</li> <li>・国の補助金獲得等により、審議会を別途開催する可能性がある。</li> </ul>
議題5 その他	
事務局	<p>現在町が総合戦略に基づき進めている、新市街地整備プロジェクトや企業誘致等について、進捗状況も含めて担当課である新市街地整備課長の城後より説明する。</p>
新市街地整備課長	<p>(資料4に基づいて事務局から説明。)</p> <p><b>【国道4号東埼玉道路】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺道路の渋滞緩和等を目的とした総延長17.6kmの道路である。</li> <li>・一般道路について築造を進めており、外環道から吉川市川藤までの5.7kmが開通済みである。</li> <li>・吉川市川藤からは松伏町を通り、春日部市水角までの8.7kmについて平成20年度から事業が進んでいる。</li> <li>・全体の用地買収率については、約85%で、昨年度から弥生橋付近の橋脚の基礎工事や旭橋付近では盛土工事が始まっている。国の予算としては今年度は約23億円がついており、用地買収や工事をさらに進めていく予定。</li> <li>・開通時期は未定であるが、国への要望活動を引き続き行っていく。</li> </ul>

**【浦和野田線】**

- ・越谷市神明町から野田橋までの総延長8.3kmの道路で順次整備をしており、4.2kmが完了。残りの部分は埼玉県が実施していく。
- ・町内の未開通部分については、一部埼玉県が工事や地質調査等を実施している状況である。

**【新市街地区域】**

- ・東埼玉道路や浦和野田線の結節点ということから優位な立地であり、産業系土地利用や拠点となる道の駅を検討している。

**【松伏・田島地区産業団地整備事業】**

- ・松伏高校北東側の約18.3haで県の企業局と町との共同事業として産業団地の整備を行うもの。
- ・埼玉県において、今年度から予算が付いており、用地買収や土地利用転換に必要な各種手続きを行う。
- ・順調に進めば来年度より造成工事が開始され、平成32年度末に造成完了と計画しており、平成33年度以降に進出企業が建築工事を行う予定。

**【道の駅整備事業】**

- ・平成27年12月に町職員による検討委員会を設置し、昨年度基本構想を策定した。
- ・交通結節点となるバスターミナルと道の駅を一体的に整備した特色のある道の駅を、東埼玉道路沿線に設置したいと考えている。
- ・今年度は、基本構想をより具体化させた基本計画の策定を行う。策定にあたっては町民に対してのワークショップ等を開催し、意見を反映させていきたい。

**【(仮称) ゆめみ野北地区整備事業】**

- ・新たな人口増加の受け皿となるべく、土地利用転換を行うため、今年度から地権者と組織作りを行った。
- ・「職」の拡大に対応する「住」の確保を行い、職住近接を進めていく。

**【大川戸砂田・神明地区】**

- ・県道春日部松伏線沿線に工業集積を進めている。
- ・砂田地区は、オリックス(株)がテナント型の倉庫を現在建築中である。来年春頃には竣工予定。
- ・神明地区は、モリト(株)が自社の物流倉庫として使用予定。今年の11月頃には竣工予定となっている。
- ・大川戸地区に2社の企業が誘致できたことで、今後町の活性化が図られる。

会長	・新市街地整備等について説明があったが、何か質問等はあるか。
委員	・企業誘致ができたということであるが、関心がある企業がいれば更に受け入れをするのか。
新市街地整備課長	・関心のある企業に対しては、松伏・田島地区産業団地を整備していくことから、こちらを紹介している状況である。
委員	・産業団地について興味を持っている企業は多い。 ・松伏の持っているポテンシャル、魅力は高いと思っている。県との共同事業ということだが、できるだけ早期に行ってほしい。
委員	・新たな人口の増加はどのように考えているのか。
新市街地整備課長	・仮称ゆめみ野北地区を住居系とすることを考えている。松伏・田島地区産業団地で働く人が、仮称ゆめみ野北地区で住むという受け皿を作ることで定住化を進めていく。
委員	・北部地域は新市街地エリアから遠い。北部の活性化はどのように考えているか。
会長	・金杉、築比地地区は大昔から台地であり、水に強い地区であることから、そのようなポテンシャルのある場所を開発することも良いのではないかと思っている。
会長	事務局から報告事項はあるか。
事務局	・次回開催は9月下旬を予定している。 ・内容は、松伏町多世代交流学習館の効果検証及び町長への答申。 ・改めて事務局から委員の皆様と事前に日程調整をした後に、開催通知を発送する。 ・次回までに不明点などがあれば事務局に問い合わせる。
会長	閉会を宣言。
閉会	